

お正月はエピファニーまで

1月6日はエピファニーでした。イエス・キリストが、異邦人である東方の三賢者の訪問を受けたと
のことで、世界の救世主として、公に現れた日、公現日として定められています。日本ではクリスマス
・イブが終わるとお正月モードになりますが、教会はエピファニーまで、クリスマスを祝い続けます。



エピファニーのお菓子

かつて、抽選でお正月のパリ旅行が当たりました。エピファニーの日に妹と
パリを散策し、とあるレストランで食事をし終わった時のことです。店主から、
「エピファニーおめでとう」と声をかけられ、大きなケーキをプレゼントされま
した。お店のお客様たちも喜んで、私たちに微笑みかけて、「エピファニーおめ
でとう」と言ってくれました。とても嬉しく、妹は大喜びでした。私が勘定を支
払ったのに、妹がケーキを抱きしめてしまいました。私たちはパリの町では、
異邦人そのものでしたから、この日のお祝いに相応しい登場人物だったのか
もしれません。シャンゼリゼ通りはイルミネーションが輝き、どこのお店もクリスマスの飾りつけがな
さされていました。パリで最古のサン・ジェルマン・デ・プレ教会の礼拝に出席しました。神父が私たちの
席まで歩み寄り、握手し、よくいらっしやいましたと歓迎して下さってから、ミサが始まったのを印象
深く覚えています。その日のことは忘れられません。

日本では12月25日からは迎春モードにサッと切り替わります。私も、大みそかには、クリスマスカ
ード一覧(?)を別の場所に移動し、お正月の準備に取り掛かりました。母から譲り受けた津軽塗の重
箱におせちを詰めます。とはいうものの、私が手作りするのは、数の子、煮豆、御膳で、あとは「切っ
て並べる」だけです。夫はお雑煮があれば十分と言うので本当に助かります。申し訳ないので、私は
雰囲気造りを一応試みます。お香を焚いて、箏曲のCDをBGMにしてみました。

元旦には夫も和服を久しぶりに着て、港南台教会の元旦礼拝に出かけました。力強いメッセージに
励まされ、皆さまと共に祈りし、一年を始めました。

このお正月には私の妹夫婦、末の妹が初のエルミタージュ訪問をしてくれました。沖縄に住む妹
は現役の牧師として、様々な課題を抱えています。特に、基地問題では、県民の民意を実現させたい
と願っています。なかなかそれを許さない政府との闘いがあります。また、ヤマトンチュウ、ウチナン
チュウの意思の疎通もデリケートな部分があるようですから、どのような姿勢で働くかが常に問わ
れているようです。妹の夫は平和活動家ですし、もと市役所職員であったため、社会の底辺で生き
ざるを得ない人々の現状に詳しいのです。みんな、政治の在り方、社会のひずみ、経済格差など、
きりがいいほど話し合いました。末の妹は沖縄の妹と歳が近く、とても仲良しです。いつも姉たちの



ために心遣いをしてきています。去年娘が結婚し、急に夫婦二人の生活に
なりました。妹の夫は退職後も特技の翻訳を依頼されて、多忙を極めていま
す。「僕と遊びたいならこっちへ来い」とのこと。そのうち行くからね！妹の
趣味は文楽で、去年隠退した竹本住大夫の大ファン。浄瑠璃の情念いっぱい
の語りには引き込まれてしまうとのことで、おかげで私も2度観劇しました。

目下、和服を着ることが楽しいとのことで、気取らず、さりげなく、着こなすことを願っています。

お正月に特別に延岡の友人から頂いた飲み物があります。「れんと」という名前の音響熟成によ
る奄美黒糖焼酎です。クリスマスに「れんと」とは是如何にと思いますが、口に含むとプリルのように、
波打って広がるような、柔らかい、まるやかな感覚が味わえます。この焼酎はタンクに貯蔵され、取
り付けられたトランデューサーによってクラシック音楽を3か月聴かせられ、熟成を待つ、不思議な製
法によるものです。妹たちは運転するため、残念ながら、美味な「れんと」を飲めませんでした。